

別紙１ テーマ１の提案に関する施策推進状況

テーマ１：「奈良の魅力の大発見—私は奈良県の“これ”をPRしたい！～奈良の売り、奈良の魅力を情報発信—」

提案項目	提案要旨	回答課	施策推進状況
(1) 正倉院展のあり方	春と秋の２回の展示、８時から２１時までの開館、常設にする。	文化国際課	正倉院展は、奈良国立博物館において開催されています。天平時代から伝わる宝物の点検を兼ね、年１回秋に一般公開され、奈良県として、正倉院展の期間延長の要望を宮内庁等関係機関にしていますが、貴重な宝物なので、保存の観点から常設や長期の展示は困難であると聞いています。 「平城遷都１３００年記念事業」開催の２０１０年には正倉院展の特別展示を開催して頂くことなどを、地元として要望しているところです。
(2) 奈良文房三宝展	関係者にアンケート調査を実施し、来年度の企画に生かす。	商工課	広報については、県政だより奈良（平成１９年２月号）「情報ファイル」、奈良県庁ホームページの「県政公開ニュース」に掲載し、奈良テレビの「県政フラッシュ」、奈良テレビニュース、奈良新聞でも報道されており、当課として可能な限りの広報は行っています。 なお、県庁ホームページでのPRは以下の通りです。 「県政公開ニュース」に掲載（掲載期間：平成１９年２月８日～１４日） 「奈良県商工労働部商工課のホームページ」内の商工課関連イベントガイド（掲載期間：平成１８年７月上旬～平成１９年２月末日） また、関係者・見学者の意見を聞きながら、標記展示会を行ったところであり、それらの意見は今後の展示会企画に生かしてまいりたいと考えます。
(3) 平城の魅力は？	環境や自然を破壊しないで、じっくり奈良を味わってもらえる仕組みづくりが必要。宿泊客、日帰り客に対する戦略を講じる。県内外のボランティアによる情報提供と情報共有などの仕組みが不可欠。公のホームページでの情報提供はよさができるように改善が必要。	観光課	・滞在時間を延ばし、リピーターを育てる効果がある地域の魅力を創出・演出する先進的なモデル事業の支援 ・奈良の魅力の掘り起こし ・観光ボランティアガイド研修開催によるレベルアップ ・ホームページ「大和路アーカイブ」による情報提供を行っています。 今後、ホームページによる情報提供内容にモデルコースマップや画像配信システムを追加するなど、改善を図ってまいります。
(4) 奈良をPR	地域の観光推進に必要なのはマーケティングと人材の育成。地域の文化遺産や自然を守り、支えている人を見いだし、リーダーとして養成する仕組みや各市町村で活躍するグループをバックアップする仕組みが必要。また、県内観光スポットの情報をリアルにかつ一覧的に紹介して欲しい。	観光課	地域の観光資源や活性化、イメージアップ等を図る上で、観光ボランティアガイドの果たす役割が大きいことから、活動水準のレベルアップを目的とした研修を実施しています。 また、平城遷都１３００年記念事業に主体的に関わるとともに、地域のまちおこし、できごと（イベント）づくりを通じてネットワークの輪を広げ、新しい奈良の歴史を創造する実践型の文化制作ボランティアを育成するため、「奈良２０１０年塾」も開設しています。
(5) 国際交流	各都市との交流を活発にするために、民の力も発揮できるような検討委員会を作ることを提案する。市民参加型にするため、住民が積極的に行動する必要がある。奈良の自然を壊さず、知的な情報を活用して心のゆとりを広げるイベントが重要。	文化国際課	本県では、単に特定都市との友好関係を構築するのではなく、県政の特定課題を解決・実現するための全方位的な国際交流を推進しているところです。 併せて、地域の国際化を進めるための先導的な施策を進め、現在では民間の国際交流団体も１００を超え、それぞれ活発な交流事業を展開されています。 また、本県では、このような民間交流の拠点となる地域国際化協会として、（財）なら・シルクロード博記念国際交流財団を設立し、民間団体相互の連携・協力体制を整備するネットワーク会議の開催、草の根事業に対する助成を行うなど、民間団体や地域住民との連携

提案項目	提案要旨	回答課	施策推進状況
			協働を進めています。 併せて、県と語学指導等を行う外国青年（ＪＥＴ青年）とが連携し、地域とのふれあい交流事業を開催しております。 今後も、国際交流団体や地域住民が主体となる交流を支援したいと考えています。
(6) 平城宮跡事業	終われば撤去する建物には金をかけない。建物で参加者を囲うのではなく、ＩＴ技術を利用し、バーチャルに囲う方法を考えて欲しい。	平城遷都 1300年 記念事業推進局	2010年は平城京の遷都から1300年に当たり、日本の歴史文化や美しさを国の内外に発信する絶好の機会にしたいと、「歴史文化との対話と交流」をテーマに、平城宮跡事業、国際コンベンション事業、広域ネットワーク事業、文化創造・市民参加事業を柱とした「平城遷都1300年記念事業」の開催の計画を進めてきました。 今般、知事が平城宮跡等の国営公園化構想を提唱したことに伴い、現在、平城宮跡事業については、国営公園化をベースに後世に残るハード・ソフトの復原を目指し、いわゆる“博覧会方式”の事業展開を見直し、一過性の仮設パビリオン等の建設は極力避け、事業の効率化、経費のスリム化の見直しを行っている。また、社寺、市町村、市民、企業等との連携協力の下、県内各地での秘宝秘仏の特別拝観や博物館等の特別展覧会、ウォーキングイベントや国際的なコンベンションといった様々な事業展開をさらに積極的に推進し、平城宮跡をゲートウェイとして県内全体への観光客の誘客にもつなげられるようにする。 なお、来場者へのサービス向上のため展示、催事、来場者への情報提供などの各分野で最新のＩＴ技術の活用を図ってまいります。
(7) 奈良にいてできる海外文化交流	海外からのホームステイを受け入れる研修会を企画して欲しい。	文化国際課	本県では、(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団において、お互いの生活習慣や文化、価値観に対する理解を深めていただくために、県内でのホームステイ・ホームビジットを希望する外国人（ビジター）に、外国人の受け入れを希望する家庭（ホストファミリー）を紹介しています。 ホストファミリーには、上記の目的に賛同していただき、ボランティアで外国人を受け入れることができるなど、所定の要件を充たしていただければ、随時登録申請していただけます。登録申請の際は面談を行い、ホームステイを受けるための相談もお受けしておりますし、事前の電話相談にも対応させていただいております。 また、ホストファミリー登録者を対象に、毎年度、ホストファミリー研修会も開催していますので、その際にホストファミリー同士で交流していただくこともできます。
(8) 奈良の歴史と現代の融合	奈良の貴重な遺産を現代と結びつけて紹介していくべき。長い歴史の経緯から、どのようになって現代があるかを、パネル、冊子、ＩＴ技術を使った表現などで、明確にして紹介して欲しい。	文化国際課	奈良県では、平成16年3月に、日本古来の伝統芸術を核として県民参加による新たな文化芸術の創造と発信を目標とした「奈良県文化芸術振興プラン」を策定しました。 このプランでは、本県の文化資源を活かした文化芸術の展開や本県の特徴を活かした伝統芸術の振興を目指しており、これを実施するための行動計画と位置付け、様々な催しを県立文化会館、新公会堂等で実施しております。 具体的な事業については、奈良県文化情報ネットワークで県内施設での展示情報のほか、県内で開催されている文化的な催しやセミナー等の案内などを情報発信しています。 また、大和路アーカイブでは、奈良県の観光情報をデータベースとし、伝統行事や仏像情報など、広く情報発信しています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
(9) 平 城 宮 跡の発掘	県民総意のもと、1300年記念事業協会が中心となつて、発掘促進の活動をして頂くことを提案する。	平城遷都 1300年 記念事業推 進局	県としては、現在、平城宮跡の国営公園化をベースに、後世に残るハード・ソフトの復原・恒久化を念頭に、国に対して国営公園化を積極的に働きかけているところです。 また、1300年記念事業協会では、2010年には、国営公園化による恒久的復原・往時の施設活用の再現等をベースに、この地にふさわしい催事や展示を展開したい考えです。記念事業の見直しと国営公園化の要望によっては、一過性の仮設パビリオン等の無駄を省けるだけでなく、国営公園化で恒久的に復原される施設が2010年以降の「新たな奈良の観光資源」になると考えています。 ご提言の「平城宮跡の発掘」は文化庁や奈良文化財研究所が行う事業であり、その促進を図っていただきたい旨のご意見は国に伝えていきます。また、ご提言のように発掘成果の情報発信は観光振興につながると期待されるほか、将来の世代の文化財保護意識の高揚にも役立つと考えているところであり、国営公園化構想の実現によって平城宮跡の保存・整備・活用の促進を図ることができると考えていますので、県として、国営公園化について国への働きかけを一層強めてまいります。